

子どもたちの「生きる力」を育むために

Action (アクション)

～地域全体で子どもたちを支え、まちを元気にする一歩を踏み出そう～



コロナに感染したらどうしよう…
家族にうつってたら… ご近所さんどう思うかしら…



村山 綾 氏
近畿大学 国際学部 准教授
(専門: 社会心理学)

新型コロナウイルス禍に伴って偏見や差別の問題が浮き彫りになりました。**なぜこのような差別が社会問題になったのか、非難や差別に加わらないためにどうすればよいのか**を社会心理学的視点から説明します。

6月8、12、13日の計6回、オンラインで開催した「PTA等指導者人権教育研修会」での村山綾氏の講演『新型コロナウイルス禍における差別の理解と解消に向けて』の一部と、『考えよう！Withコロナ』親プロの様子を紹介します。



差別の源泉には、ステレオタイプがある！

1. 差別の源泉としてのステレオタイプ、偏見

ステレオタイプ



偏見



差別

ステレオタイプから、偏見、差別が生まれる

【解説】

ステレオタイプとは、ある社会集団の属するメンバーがもつ性格特性、身体的な特徴、行動傾向などについて私たちが抱いている信念のこと。

(例) バスケットボール選手と言われると背の高い男性が頭の中に浮かぶ。でも実際バスケットボールをしている人は女性もいるし、背の低い人達もいる。しかし、私たちは頭の中でバスケットボール選手と言われると背の高い男性が思い浮かぶ、これがステレオタイプ。

偏見とは、この**ステレオタイプ**に「好き」とか「嫌い」といった感情が含まれるもの。「嫌い」だけではなく「好き」というポジティブな感情を伴うものも偏見に含まれる。

(例) 「看護師さんは優しい」というのも偏見。看護師さんに限らずみなさん基本的には優しい方だとは思いますが、もしかすると看護師さんにポジティブなイメージを過度に抱きすぎている人がいるかもしれない。

差別とは、選択とか意思決定とか明確な行動を伴うもの。つまり、その人がその属性だから乗車を拒否するとか会合に参加させないだとか具体的な行動が差別。優遇する場合も差別になる。ただし、多くの社会問題として出てくる差別は、基本的には悪い方向、つまり何かしら損してしまうものが可視化されることが多い。

なぜコロナ差別が社会問題になったのか ～3つの視点～



1 **不安やフラストレーション** がうわさや非難を生む

2 **行動免疫システム** (病気の兆候を示している人を避ける) が過度に働いて目の前の相手を傷つける行動をとる

3 **公正世界信念** (世界が不当な不運に見舞われることのない公正で安全な場所であるという仮説を信じる傾向) が揺らいだ時、人はその信念を守るために**不公正の原因をそれに巻き込まれた人に求める(自業自得という考え方)**

講演のまとめ

6. Take home messages

- ・心にブレーキをかける
 - ・人間の心の仕組みを知る…社会心理学が貢献できる
 - ・不安を高める情報から距離を取る
 - ・得られた情報のみで判断しない
- ・不安を低減するための実質的な対策をする
 - ・家族、組織内でのシミュレーションなど
- ・ステレオタイプ化しない
 - ・差別はゆるさない、という認識を共有する
 - ・差別は「知らない」からしてしまう。容易にステレオタイプ化しない
 - ・個人間の問題を集団間の問題にしない…社会の分断を招く
- ・長期的視点で考える
 - ・感染状況のデータを見ながら長期戦を覚悟する
 - ・基本に立ち返る…手洗い、マスク、密を避ける

【解説】感染したらどうしよう、差別されたらどうしようといった不安な社会ではなく、**感染しても誰か近くの人が助けてくれると信じられる良いコミュニティをつくれるように、皆さん一人一人が協力していくことが重要だ**と思います。

医療機関勤務です。新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、ウイルスが怖いのはもちろんですが、「人が怖い」と感じる事も多かったです。今回の村山先生の講演を聞いて、ただ怖いと感じるだけではなく、**人はなぜその様に感じ行動したのかを考える事も大切であり、正しい知識や情報を身につけて対応していくと改めて思うことができました。**



参加者の感想

実際に子どもが通う小学校、幼稚園でも感染者が出ているんな噂や特定しようとする行動、いろいろな意見が保護者の中で出ました。今回の講演を聞いて、**感染しても誰かが助けてくれる、身近に感染者が出てもお互いを信じられるコミュニティづくりをしていかないといけない事、また同じ状況になった時のシミュレーションの必要性を強く感じました。**



参加者の感想

『考えよう！Withコロナ』親プロ

講演後にブレイクアウトルーム機能を使って、コロナ差別に関する『親育ち応援学習プログラム（通称：親プロ）』を行いました。1ワーク毎に4,5人グループで意見交換を繰返すことで、学びの深まりが感じられたようです。

エピソード

ある朝、少し気だるさを感じた私は、自宅で体温を測りました。37.9度…。病院に行くと「PCR検査を受け、結果が分かるまで自宅で待つように…」と言われました。



ワーク1

自分が新型コロナウイルスに感染してしまったら、不安や心配に思うことはどんなことですか。

意見交換

ワーク2

ワーク1で考えた不安や心配を軽くするには、感染前と後それぞれで、何をしたらよいと思いますか。

意見交換

ワーク3

今後、新型コロナウイルスと、どのように共存していきますか。

意見交換

まとめ ~この活動を通して、共有できたこと~

- 自分が新型コロナウイルスに感染してしまった時に抱えるであろう不安や心配は、**みんなが同じように思っていること。**
- 自分が感染してしまった時の不安や心配を考えたら、**偏見や差別はできないこと。**
- 自分事として考え、**一人一人が思いやりや優しさをもつこと。**



コロナ禍においてなかなか周りの人と意見交換をする機会が減っている中で、いろいろな方の意見が聞ける貴重な機会でした。みんなコロナを怖い、不安だと思ふ気持ちは一緒ということがわかり、**もっと身近な人の考えも聞いてみたいと思えました。**



参加者の感想



参加者の感想

オンラインで双方向で意見交換ができ、自分の考えを表明したり、ほかの方の意見を聞く中でさらに考えが深まり、広がったように感じます。講義だけですと理論を学んで終わりがちですが、**この親プロの時間で考えを深め、行動に移すきっかけになったと感じます。**



★参加者の約70%が「今年度親プロのような保護者の学びとつながりが得られる活動を**実施したい**」と答えました。

【村山綾准教授の講演動画・資料や『考えよう！Withコロナ』親プロについて】

講演動画や資料を希望される方、または「親プロ」に関するお問い合わせは、岡山教育事務所 生涯学習課 (086-221-7776) までご連絡ください。